

【登別市】

校務 DX 計画

令和6年度に実施した文部科学省が実施した「GIGA スクール構想の下での校務のDX化チェックリスト」に基づく自己点検の結果（表1）から、校務DXの推進に係る本市の課題が明らかになった。

また、チェックリスト項目にはないものの、現在、本市では市教育委員会と学校や学校間の主な連絡手段としている校務系のネットワークと教員と児童生徒が主に授業で活用している学習系のネットワークの両方を活用しており、今後これらを統合することで校務の効率化と利便性が図られるものとする。

これらを踏まえ、本市では以下の事項について重点的に取り組むものとする。

なお、ICT技術の進歩は日進月歩であり、今後も新たな課題が生じることも予想されることから、時代の流れを見極めた対応に努める。

1. 校務DX推進の重点

（1）校務系・学習系ネットワークの統合

教職員一人ひとりが柔軟かつ安全にパソコン等を活用する環境整備を進める必要があるため、ゼロトラストの考え方にに基づき、セキュリティ対策を十分に講じた上で、学校と市教育委員会が連携を図りながら、場所や時間を選ばず校務系と学習系ネットワークの一元化と教職員用端末の一台化に向けた調査研究を着実に進めていく。

（2）保護者との連絡体制について（表1 設問1・2）

本市ではGoogle フォームなどのクラウドを活用した保護者からの欠席連絡を受けられる体制を推進しており、すでに実施している学校では業務の効率化につながっているなど一定の効果が見られているが、学校の運用ルールの違いにより、実施していない学校もある。

このことを踏まえ、活用が進んでいない学校に対し、実施によるメリットについて情報提供し活用を促すことで、保護者との連絡体制のクラウド化を推進する。

(3) 生成 AI の活用について (表 1 設問 3)

生成 AI は黎明期にあり、技術革新やサービス開発が飛躍的なスピードで進展している。こうした中、本市では、令和 6 年 11 月より、校務での生成 AI 活用の試行実施を開始し、各学校では徐々に活用が進み出したところである。

このことを踏まえ、市教育委員会がガイドラインを整備するとともに、登別市教育委員会デジタルフェローと連携し教員を対象とした研修会を開催するなど、安全な運用の在り方を段階的に見極めながら生成 AI の活用を推進していく。

(4) FAX 及び押印の廃止について (表 1 設問 4・5)

現在も外部とのやりとりで FAX を利用しているほか、保護者や外部とのやりとりで押印が必要な書類がある。

このことを踏まえ、教育委員会が現状を把握し、慣行となっている FAX 及び押印の廃止を図っていく。

表 1

	設問内容	完全実施	半分以上実施	半分以下実施	未実施
1	児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計している。	38.5%	15.4%	7.6%	38.5%
2	保護者との日程調整について、クラウドサービスを用いて行っている。	0%	53.8%	0%	46.2%
3	「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき生成 AI を校務で活用している。	0%	0%	46.2%	53.8%
4	業務に FAX を使用している。	ある 92.3%		ない 0.77%	
5	業務で押印が必要な書類はありますか。	ある 92.3%		ない 0.77%	

※『GIGA スクール構想下での校務 DX チェックリスト』に基づく自己点検結果より抜粋